

第2期環境目的(中期目標)及び平成23年度環境目標(年次目標)

No.	基本方針	環境項目		環境目的(中期目標) (平成22~27年度)	環境目標(年次目標) (平成23年度)
1 (A)	教育・学術研究を通じた人材の育成	教育活動	学部・大学院、附属学校園等	環境分野において高い総合能力と人格を備えた人材を育成する。	環境分野の高い総合能力を備えた人材を育成するため、学部・大学院等の講義、実習、実験、附属学校の総合的学習等を通して環境分野の教育を推進する。
1 (B)	環境保全・改善に関する研究成果の創成と継承	研究活動	地球環境・地域環境	環境保全・環境改善等に関する研究を推進する。	地球環境、地域環境に係る研究を推進し、研究成果を公表して広く活用されるように努める。
			生物多様性	生物多様性の保全及び生物資源の持続可能な利用に関する研究を推進する。	生物多様性の保全及び生物資源の持続可能な利用に関する研究成果を広く公表する。
2	地域社会・一般社会との連携	地域貢献	公開講座等の推進	環境配慮活動の啓発を推進する。	地球環境・地域環境の理解、環境配慮の啓発のためのシンポジウム、講演会、公開講座等を開催する。
			地域社会への貢献	環境配慮活動に関する産官学の連携を推進する。	審議会等への参加や産官学による環境活動の連携により、環配活動を推進し、その啓発活動に努める。
3	環境に関連する法令の遵守	法令の遵守		環境及び安全に関連する法令等を遵守する。	大学に関連する環境及び安全に関する法令を遵守するために、研修、講習会を継続実施し、全学教職員、学生の啓発活動に努める。
4	環境負荷の低減	①省エネルギーの推進		省エネルギーについて啓発するとともに、大学全体としてエネルギーの効率的利用のため施設、設備整備を推進する。	各部局等のエネルギーの使用状況を把握するとともに、エネルギー使用量増加の要因分析を行う。環境負荷低減に配慮した施設、設備の導入及び省エネルギーの啓発を推進する等、各部局と連携し、エネルギー使用量の一層の削減をめざす。
		②地球温暖化対策	温室効果ガス	「国立大学法人岡山大学における地球温暖化対策に関する実施基本計画」に掲げる事項について実施し、本部及び各部局等で検証する。	温室効果ガスの排出量・削減計画を全学の教職員及び学生へ周知し、実施基本計画の推進状況を検証する。
		③省資源対策	用水	平成27年度に上水の使用量を平成21年度比6%削減する。	広報活動等を通して節水に協力を求めるほか、設備的な節水対策などにより、用水の使用量の一層の削減を図る。
			用紙	平成27年度にPPC用紙の使用量を平成21年度比6%削減する。	各部局等において、ペーパーレス、両面使用などにより、用紙の一層の節約に努める。PPC用紙使用量増加の要因分析を行い、用紙使用量削減の啓発活動に努める。
		④廃棄物の減量化・適正管理	廃棄物の減量化	廃棄物の分別を徹底し、廃棄物の減量化・再資源化を図る。	広報活動等により、廃棄物分別の徹底を継続し、廃棄物の減量化及び再資源化のためにリユース・リサイクルシステムの構築に努める。
			有害廃棄物	有害廃棄物の適正な管理及び委託処理を図る。	有害廃棄物の環境への排出を防止する。有害廃棄物を適正に管理し、安全な委託処理を継続する。
⑤グリーン購入の推進		環境配慮型製品の優先的購入を図る。	グリーン購入について、調達目標が100%になるよう、説明会開催によりさらに周知徹底する。		
⑥化学物質の管理徹底		化学物質の適正管理を推進する。	引き続き、化学物質の適正管理を徹底するとともに、化学物質管理監査を実施して管理の検証・改善を図る。		
5	環境配慮活動の継続	地域社会における環境配慮活動		地域社会における環境配慮活動を展開する。	地域における環境学習、環境ボランティア等の活動を通して、地域貢献活動を行う。
		環境コミュニケーションの推進		学内外における環境コミュニケーションを推進する。	環境報告書等を利用した学内外の環境コミュニケーションを推進する。教職員・学生の協働を構築することにより、環境配慮活動を推進する。